



© P&Co. Ltd. 2023

OGAKI KYORITSU

TIMES

パディントン™タイムズ

パディントン™タイムズはOKB大垣共立銀行が編集・発行している新聞です。

号外

SPECIAL EDITION

発行/OKB大垣共立銀行
発行日/2023年12月21日

OKB in AICHI
100周年号

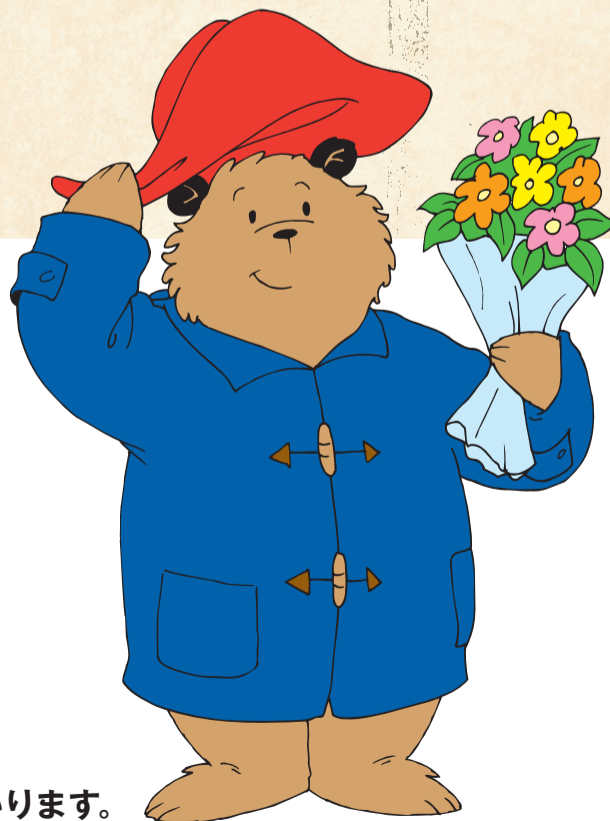
おかげさまで、 愛知県での営業を 開始してから 100周年



2023年12月21日、OKB大垣共立銀行が
愛知県での営業を開始してから100周年を迎えました。
100年の間にあった幾多の困難を乗り越えることができたのも、
ひとえに地域の皆さまの支えがあつてのことです。

地域の皆さまとともに、次の100年へー。

これまで支えていただいた地域の皆さまのため、
これからともに成長・発展していく地域の皆さまのため、
OKBはこれからも皆さまに寄り添ったサービスをお届けしてまいります。



ダイヤルサービスセンター

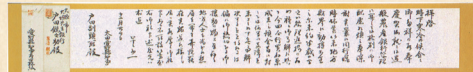
商品やサービスに関するダイヤル窓口です。お気軽にどうぞ。
☎0120-888823 サービス番号 111
受付時間/平日9:00~21:00 土・日・祝休日9:00~17:00

ホームページアドレス <https://www.okb.co.jp>



OKB 愛知県での100年の軌跡

▼農産銀行買収を伝える新聞記事



▲愛知県知事から差し出された感謝の書簡



全国金融機関初のドライブスルー店舗
ドライブスルーながくて出張所開設



豊橋支店・藤沢支店、
同時開設



愛知県での営業開始
100周年

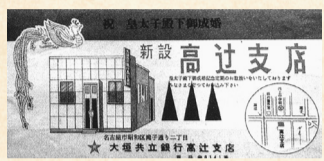


名古屋市中区に
名古屋支店開設



▲名古屋支店開設時に配布した時刻表

高辻支店開設
以降、名古屋市内への重点配置を実現



▲高辻支店開設のチラシ

名古屋駅前に新たなサービス拠点
OKB Harmony Plaza 名駅開設



▲エントランス

高蔵寺まちづくり会社設立



▲ブルッポふじとう開所式

あかいけ支店開設



▲あかいけ支店が入居するOKBプランタンあかいけ

1914年に開戦した第一次世界大戦により、日本は大戦景気に沸いていた。欧米諸国からの輸入がほぼ途絶え、国内では重化学工業を中心に企業の創設や拡張が相次いだ。さらに、主戦場から遠く離れた日本は軍需品の供給基地となり、輸出が増加。海運業・造船業を中心に大きな利益が生まれた。しかし、戦後その反動は大きく、1920年3月の株価暴落を契機とした不況の嵐は、全国169の銀行が取り付け騒ぎの洗礼を受ける金融恐慌にまで発展した。

そんなさなかの1923年12月、OKB大垣共立銀行は当時の愛知県西春日井郡六郷村大曾根(現名古屋市中区大曾根)にあった農産銀行を買収した。初めての県外進出ということだけでなく、同地域の預金者救済のためにあってリスクを冒し、地域金融のあるべき姿を買った歴史的な事案でもあった。ここから100年にわたるOKBの愛知県での歩みが始まることとなる。

農産銀行買収の舞台裏

農産銀行は1912年9月に設立され、10年ほどで愛知県内だけでも100カ所を越す店舗を持つ有力行に成長していた。しかし、預金量に比べて貸出金が多く、さらに乱脈な経営姿勢や一部役員たちの政治への傾倒が銀行の評価を下げていた。全国で取り付け騒ぎが起こるなか、愛知県の金融業界からは「憂慮すべき事態にある」と見なされるまでになっていた。

1922年12月、ある銀行の名古屋支店が閉鎖を発表した余波から農産銀行は取り付け騒ぎに遭い、OKBに救援を求めた。OKBはその要請に応え、数回にわたって支援。農産銀行は当面の危機を乗り切ることができ、これを機に、OKBに合併を申し入れてきた。しかし、農産銀行の資産内容などを調べたところ、予想以上に悪い状態であったため、OKBは一切の支援関係を断絶することを決めた。

ところが、ここに来て事態を危惧した愛知県が動き出す。農産銀行が破綻した場合の地方財政への影響を懸念して、OKBに合併再交渉をあっせんしてきたのだ。いったんは合併を拒んだOKBであったが、再度合併を検討することとなった。

再三にわたる協議を経て、OKBと農産銀行は1923年6月20日、合併契約書に調印。7月25日に両行ともに株主総会で議決することになった。しかし事態は急展開を迎える。株主総会を控えた7月12日、愛知県の新聞に農産銀行の役員が、行金流用の背任行為があったとして株主から告訴されたとの記事が大きく掲載されたのだ。農産銀行はすぐに預金者の取り付け騒ぎを受けて大混乱に陥った。

資金の支援要請を受けたOKBは合併契約に基づき、援助資金を用意。しかし、担保の代

わりに農産銀行役員の連帯保証を求めたところ、頭取と役員1人が拒否。さらには頭取が行方をくらまし、農産銀行はOKBに何の相談もなく、一方的に臨時休業に入ったのだ。これが取り付け騒ぎの火に油を注ぎ、名古屋地区の各行が巻き込まれる事態となった。事態が鎮静化したのはそれから10日ほど後。日銀が巨額の資金を放出し、収拾に努めた結果であった。



承認を経ずに臨時休業したのは契約違反として、OKBは7月21日の取締役会で契約解除を決め、合併を決めるはずであった25日の株主総会で、正式に白紙化が決定した。

ところが、農産銀行の株主はOKBとの合併以外考えられないとして預金者らと実行委員会を立ち上げ、OKBに合併契約の復活を求めた。だが、当時OKBの副支配人であった土屋義雄は「これを引き受けたら農産銀行と心しなければならぬ。断じて合併はしない」と頑なに断った。

しかし、実行委員会も諦めきれず、幾度となく愛知県などへの働き掛けを行った。その結果、日銀名古屋支店長がOKBを訪れたのだ。「愛知県北東部の預金者たちは、なげなしの預金がなくなくなり生きていけないと狂乱状態になっている」。日銀支店長のその言葉に、面談した役員は窮地に立たされたようであった。旧大垣藩家老であっただけに、預金者らの苦悩をおもんばかっていたのだ。そしてこれらの出来事を受け、土屋も決意を新たにす。「預金者を路頭に迷わせるわけにはいかない」。

12月16日、OKBの臨時株主総会が開かれ、預金者を救済するため、農産銀行の買収が正式に決まった。買収で新たに大曾根、勝川、清水、岩倉の4支店、高蔵寺、春日井など4派出所を開設。21日から営業を開始した。この際、農産銀行から引き継いだ預金だけではなく、150日の休業期間中の利子も支払うなど、異例の措置を取った。預金者らは喜び、愛知県知事からは感謝の書簡が届いた。書簡は農産銀行を巡る歴史の証跡として、今でもOKB本店に保管・展示されている。

愛知県への出店を加速

1953年、OKBは名古屋市中区の富士銀行跡地に名古屋支店を設置し、名古屋とその周辺部に支店網を拡充する基地とした。さらに、尾西支店を開設し、尾州織物産地へも進出を果

たすなど、営業基盤の拡充を進めていった。

1950年代後半以降、東海地区は交通網の整備などを背景に都市部を中心に産業が飛躍的に成長。しかし、当時のOKBの店舗配置は都市部より農村部のウェイトが高かった。そのため、1956年に長期的な展望に基づいた店舗配置計画を策定。名古屋を中心として愛知県に店舗増設の主体を置きながら、岐阜・三重の各産業地帯にも展開していくというものであった。1959年2月の高辻支店を皮切りに、尾頭橋支店、菊井町支店、内田橋支店、黒川支店と名古屋市内への重点配置を実現していった。1966年には、三河地方初出店となる安城支店を開設。その後も1970年に稲沢支店、高蔵寺ニュータウン出張所、大府支店を、1972年に江南支店を開設するなど名古屋方面への積極的な店舗展開を行った。

また、顧客ニーズの多様化を受け、1977年に協栄リース(本社:東京都中央区)の経営権を取得。名称を共友リースと改め、1982年に本社を名古屋市内に移転した。

地域特性に合わせた店舗展開

2000年代に入り、OKBは顧客目線の店舗、地域特性に合わせた店舗の展開を進める。2008年に開設した岡崎支店は、同ビル内にイタリアンレストランが入居する複合型店舗とした(現在はスポーツジムが入居)。2009年には、知多半島の中核都市である半田市に半田支店を開設した。店舗は異業種研修制度でコンビニ店長を経験したメンバーがプロデュース。コンビニのように気軽に入れる店舗を目指し、見た目も中身もコンビニの要素を取り入れた店舗とした。2011年、名古屋駅前の新たなサービス拠点としてOKB Harmony Plaza 名駅を開設。開放感あるロビーラウンジなど新しいコミュニケーション空間を用意した。

2013年には全国でも注目を集める店舗が誕生する。車の利用が多い日進・長久手エリアの特性に合わせ、車に乗ったまま窓口やATMを利用できる全国金融機関初のドライブスルー店舗を開設したのだ。利用者からは「雨の日や子どもを乗せている時でも車から降りる必要がないので便利」などの声が寄せられている。



2014年、豊橋市内に豊橋支店・藤沢支店の2店舗を同時オープン。現在、豊橋支店の1階に

は地域住民も利用できるギャラリースペースを設置している。

異業種とのコラボレーション店舗も設置が進む。2019年に移転した本山支店は、文教地区の立地を活かし、学生向け共同住宅を主体とした複合ビルに入居している。2020年にはあかいけ支店を開設。近隣に大型商業施設があり休日も賑わう地域であることから、フィットネスジムなどとコラボレーションしている。同じく2020年に移転したニュータウン支店は、シニア世代を中心とした顧客が来店しやすいよう、喫茶店のテナントとともに複合施設に入居。時代や地域の変化に合わせ、顧客満足度・地域貢献度の高い店舗づくりを進めている。

地域への貢献活動も

自動車保有台数が最も多い愛知県。未来を担う子どもたちが交通事故に遭わないよう、OKBは2012年度から毎年度、愛知県内の新小学1年生に交通安全小冊子を寄贈している。交通安全の啓蒙活動の一環として、愛知県警と愛知県交通安全協会の協力を得て制作。行動範囲が広がる新小学1年生に交通マナーなどを学んでもらおうと、踏切の正しい渡り方などをイラスト付きで紹介している。

まちづくりにも積極的に取り組む。2017年、OKBは春日井市や春日井商工会議所などと共同で、「高蔵寺まちづくり会社」を設立した。まちづくり会社は高蔵寺ニュータウンの空き家調査・流通促進事業などを展開。また、旧小学校施設を活用した複合施設「ブルッポふじとう」の管理・運営を行い、少子高齢化などの影響で人口減少が進むニュータウンの良好な環境や価値の維持・向上を目指している。

2019年、OKBは取引先へ日頃の感謝を伝えるべく、「サロン・ドOKB」を開催。名古屋から始まり大垣・岐阜と、3会場で開催したこのイベントには合計で約2,000人が参加した。



地域があってこそその地域金融機関。これまで100年かけて紡いできた愛知県との歴史をこれからも紡ぎ続けるため、OKBの歩みは止まらない。

OKBの愛知県での歴史を映像でもご覧いただけます。

